

巻頭言

若手の会 活動紹介

若手の会委員長 産業技術総合研究所 武仲能子



産業技術総合研究所の武仲能子と申します。今年度から2年間、若手の会委員長を仰せつかっております。若手の会は、企業や大学所属の若手20名程度の委員からなり、毎年夏に、若手会員の交流や新たな若手会員の勧誘を目指してサマースクールを行っています。昨年も8月3日(木)~4日(金)にかけて、静岡県伊東市にあるライオン伊豆高原研修センターにて、1泊2日でサマースクールを行いました。サマースクールは、毎年、講師の先生方のご講演と、参加者のポスターセッションを柱に行っています。委員メンバーから、是非お話を聞いてみたい講師の先生を挙げていただき、今年は「油化学・界面化学の研究開発に役立つ最新トピックス」をテーマに、7名の先生方にご講演をお願いしました。

1日目は、東京理科大学の酒井秀樹氏「界面活性剤に関する最近のトピックス~機能向上と新しい利用法~」、慶應義塾大学の竹村研治郎氏「定量データからの触感の推定~触感用語の整理と定量化手法~」、日産化学工業株式会社の林寿人氏「三次元培養培地FCeMシリーズの紹介」、産業技術総合研究所の原雄介氏「POCTの実現を目指したポンプ一体化型マイクロチップの開発」の4名にご講演いただき、活発な議論が行われました。また2日目は、三菱鉛筆株式会社横浜研究開発センターの市川秀寿氏「筆記具の技術」、早稲田大学の枝伸彦氏「スポーツ現場におけるスキンケアの重要性」、京都大学の菅原達也氏「有効活用を目指した海洋生物由来脂質成分の機能性評価」の3名にご講演いただきました。

講師の先生方のご専門は多岐にわたり、界面活性剤の基礎的な内容から生物や医療に関係する応用的な内容、さらにはスポーツや筆記用具に関する内容まで、様々なお話を聞くことができました。一見すると、油化学や界

面化学に関係なさそうに見えるタイトルでも、実は、触感やスキンケアというのは皮膚という「界面」の現象が深く関わっていますし、筆記用具についても、インクの開発には油化学の知見が深く関わっていることを知りました。会場からの質問も多く、活発な議論が行われたことから、幅広い研究内容への参加者の興味を目的に、今後のサマースクールでも、トピックスを狭い範囲に制限することなく幅広い研究内容について聞ける場にしていきたいと思いました。

サマースクールのもう一つの柱であるポスターセッションでは、昨年開始したポスター賞の贈呈を今年も行い、最優秀賞として成蹊大学の小河重三郎氏、優秀賞として慶應義塾大学の伴野太祐氏、産業技術総合研究所の中住友香氏のあわせて3名の方が受賞されました。

参加者は、例年と同じく、企業や大学の若手を中心とした40名あまりでした。若手の会という、分野によっては大学院生が中心となって行っているところもありますが、油化学若手の会の参加者には企業関係者が多く、産学官の交流が活発であるのも油化学という分野の特長の一つだと思いました。何名かの講師の先生方には研修センターに宿泊していただき、講師の先生方と参加者で夜遅くまで話が盛り上がりました。毎年サマースクールの準備は年明けから徐々に始めているのですが、本年もまたいろいろな分野の先生をお呼びし、有意義な会にしたいと考えています。私も油化学分野で研究する同世代の研究者の一人として頑張っていきたいと思っていますので、若手の皆さん、是非入会いただき、ともに盛り立てていただければと思います。今年のサマースクールの参加募集は5月下旬~6月に行う予定であり、会誌にも掲載予定です。皆さまのご参加をお待ちしています。